

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●エフフォーリアが無敗のまま皐月賞制覇

4月18日(日)に行われた皐月賞(G I)ではエフフォーリア(牡3歳/美浦・鹿戸雄一厩舎)が優勝、デビューからの連勝を4に伸ばすとともにG I初挑戦初制覇を果たしました。無敗での皐月賞制覇は3年連続・史上19頭目。鞍上の横山武史騎手もG I初勝利。父・横山典弘騎手も1998年皐月賞をセイウンスカイで勝利しており、皐月賞では2年連続・史上3組目のジョッキー親子制覇となりました。

### ●中山グランドジャンプではメイショウダッサイがJ・G I連勝

4月17日(土)に行われた中山グランドジャンプ(J・G I)ではメイショウダッサイ(牡8歳/栗東・飯田祐史厩舎)が勝利、昨年の中山大障害に続くJ・G I連勝となりました。なお、同レース5連覇中だったオジュウチョウサン(牡10歳/美浦・和田正一郎厩舎)は5着、レース後に左第1指骨剥離骨折を発症していることが判明しました。休養期間については未定です。

### ●矢作芳人調教師がJRA通算700勝を達成

4月17日(土)の2回阪神7日・第11レースとして行われたアーリントンC(G III)ではハウオウアマゾンが1着となり、同馬を管理する矢作芳人調教師(栗東)は、史上55人目、現役では9人目となるJRA通算700勝(延べ7182頭目)を達成しました。

### ●JRA史上初となる女性騎手の1～3着独占

4月17日(土)の1回新潟3日・第7レースでは、古川奈穂騎手騎乗のクラウンデザイアーが1着、藤田菜七子騎手騎乗のキムケンドリームが2着、永島まなみ騎手騎乗のモノボリーアイズが3着となりました。女性騎手による1～3着独占は、JRA史上初のこと。前週4月10日(土)の新潟・第7レースでは、藤田菜七子騎手と永島まなみ騎手がワンツー・フィニッシュ、史上初めてJRA所属女性騎手による1着・2着独占を達成したばかりでした。

### ●パフォーマプロミスとテーオーヘリオスの競走馬登録抹消

2018年日経新春杯(G II)などの勝ち馬パフォーマプロミス(牡9歳/栗東・藤原英昭厩舎/JRA通算22戦8勝)と、2018年北海道スプリントC(門別・Jpn III)の勝ち馬テーオーヘリオス(牡9歳/栗東・梅田智之厩舎/JRA通算42戦6勝・地方5戦1勝)は、3月20日(祝・土)付で競走馬登録を抹消されました。パフォーマプロミスは滋賀県栗東市のTCC Therapy Parkで乗馬となり、テーオーヘリオスは地方・佐賀競馬に移籍する予定です。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●プリンシパルS(東京)に岩手のマツリダスティールが登録

プリンシパルS(L、5月8日、東京、1着馬は日本ダービーの優先出走)にマツリダスティール(岩手)が登録しました。盛岡の芝で4勝しており、京王杯2歳S1秒0差10着(18頭立て)の内容から、相手次第では上位進出の可能性もありそうです。

### ●アイバンホーが北日本新聞杯を大差勝ち【各地の主要3歳重賞】

北日本新聞杯(4月18日、金沢、1700<sup>米</sup>)は、3番手から3コーナーで先頭に立った金沢ヤングチャンピオンの覇者アイバンホー(牡、父プリサイスエンド)が後続を2秒0引き離して圧勝、単勝元返しの支持に応えました。菊水賞(4月15日、園田、1700<sup>米</sup>)は、中団から差を詰めた2番人気のシェナキング(牡、父ベルシャザール)がゴール前で差し切って優勝。単勝1.9倍で断然人気のサラコナンは5着でした。あやめ賞(4月18日、水沢、1400<sup>米</sup>、牝馬)は、逃げた単勝1.3倍で圧倒的人気のゴールデンヒーラー(父タートルボウル)が、ベニスビーチに1馬身<sup>3</sup>/<sub>4</sub>差を付けて完勝、重賞3連勝を達成しています。クラウンC(4月21日、川崎、1600<sup>米</sup>)は、中団から追い上げた2番人気のジョエル(牡、父トーセンブライト)がゴール前で抜け出し、重賞初制覇を取めました。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●G1クイーンエリザベスS～アデイブが連覇達成

2日間で8つのG1が行われ、オーストラリア・シドニーの競馬におけるハイライトとなっている「ザ・チャンピオンシップス」の2日目が4月17日にランドウィック競馬場で開催されました(初日は4月10日)。この日のメインレースとなるG1クイーンエリザベスS(3歳上、芝2000<sup>米</sup>)を制したのはイギリスから遠征したアデイブ(騾7歳、父ピヴォタル、W.ハガス厩舎)。出遅れ気味のスタートでしたが、徐々にポジションを押し上げて、直線の入り口で先頭に立つと、最後はG1・8勝馬ベリーエレガントの追い上げを0.5馬身差退けて、このレースの連覇を果たしました。アデイブはクイーンエリザベスS2勝のほかにも昨年のG1英チャンピオンS(芝1990<sup>米</sup>)とG1ランヴェットS(芝2000<sup>米</sup>)を制しており、これでG1・4勝目。前走のG1ランヴェットSではベリーエレガントの1馬身差2着でしたが、今回は鞍上T.マーカンド騎手の提案でプリンカーを初装着。雪辱を果たしました。